

○4 番（川上陽平）登壇 私は自由民主党福岡市議団を代表して、新型コロナウイルスワクチン接種の円滑な推進について、福岡市民体育館跡地への福岡武道館の移転について、2 点質問いたします。よろしくお願いいたします。

まず初めに、新型コロナウイルスワクチン接種の円滑な推進についてお尋ねいたします。

福岡市は現在、緊急事態宣言下において、新型コロナウイルス感染症対策として、不要不急の外出自粛や営業時間の短縮など、市民の皆様にご協力をいただいております。陽性者は減少傾向にあります。しかしながら、これまでも収束に向かうと思えば感染拡大が広がるといったことを繰り返し、感染が拡大するたびに市民の皆様に大きな負担を強いてきました。このような中、やはり感染収束の切り札はワクチンではないでしょうか。実際にワクチン接種が進んでいる国々では、陽性者や死亡者の数が激減し、日常を取り戻しつつあります。福岡市においても、5 月から高齢者向けの接種が本格的に始まりましたが、菅総理が 7 月末までに高齢者への接種を終えることができるよう政府を挙げて全力で取り組むと表明され、国と自治体が一体となってワクチン接種の推進に力を注いでおります。我が会派といたしましても、福岡市選出の自民党国会議員とのワクチン接種等についての意見交換会や福岡市医師連盟との情報交換会を行ってまいりました。一日も早く、一人でも多くの方にワクチン接種を行うことはもちろん重要ですが、市民の皆様がより円滑に、そして、安心して接種を受けられる機会をしっかりと提供していくことが何よりも大切であります。

そこで、福岡市のワクチン接種の実施状況について質問してまいります。

まず、本市におけるワクチン接種の対象者数と、そのうち 65 歳以上の高齢者の数をお尋ねいたします。また、あわせて、市民へのワクチン接種をどのように実施するのか、本市の接種体制をお尋ねいたします。

以上、1 問目を終わり、2 問目以降は発言者席で行います。

○4 番（川上陽平）本市では地域の身近なクリニックによる個別接種が中心ということですので、かかりつけの先生から安心してワクチンを打ってもらえますし、土日も含めて対応できる集団接種会場、さらには施設に入所してクリニック等へ接種に行くことが難しい高齢者に対しては、施設に向いて施設内での接種ができるということで、大変バランスの取れた接種体制が組まれていると思います。

そこで、これまでの接種実績について、接種方法別の内訳も含めてお尋ねいたします。

○4 番（川上陽平）現在は国が示す接種順位の中で医療従事者の次に位置づけられている 65 歳以上の高齢者の方への接種期間だと思っておりますが、本市では高齢者への接種と併せて独自の優先接種も行われています。その内容についてお尋ねいたします。

○4 番（川上陽平）重症化リスクの高い高齢者の方を守るため、また、クラスター防止の観点から、早めのワクチン接種が望まれる職種の方に優先的に接種が行われているようですが、全国に先駆け福岡市が実施したことで、他都市にも同様の動きが出ているとも聞いております。私も独自優先は感染症対策として非常に効果的で、大変よい取組だと思っております。ただ、高齢者接種と並行して進めているということですので、その分、高齢者への接種のスピードが遅くなるのが懸念されます。

そこで、独自優先をやりながらも高齢者接種を 7 月末までに終わることができるのか、お尋ねいたします。

○4 番（川上陽平）高齢者接種が 7 月末までに完了できると聞き、安心いたしました。

本市ではクリニックでの個別接種や集団接種会場での接種に加え、高齢者入所施設への出張接種も進められていますが、このうち接種医を確保できない施設への対応はどのようにされているのか、お尋ねいたします。

○4番（川上陽平） 次に、高齢者全体でどれくらいの方々が接種を受けられるのか気になるところです。

そこで、現時点で高齢者の接種予約は何件入っているのか、また、接種は2回受ける必要がありますので、高齢者全員が2回接種すると仮定した場合、何パーセントの方が既に予約を完了していることになるのか、お尋ねいたします。

○4番（川上陽平） 相当数の方が7月までの間に既に予約を済まされているようですが、あるクリニックでは8月以降にしか予約が取れなかったという事例も聞いております。

こうした方たちが少しでも早く接種を受けられるようにどのような対策を取られているのか、お尋ねいたします。

○4番（川上陽平） 次に、接種券の配付及び予約受付について質問いたします。

高齢者向けの接種券については4月末に一斉送付されましたが、その際、予約開始日の案内文書が同封されておらず、予約開始前からコールセンターやクリニックへ問合せや予約の連絡が殺到いたしました。クリニックでは高齢者の予約開始後、通常の診療業務に加えて、ワクチン接種に伴う予約や問合せ対応に日々追われているとも聞いております。

高齢者に続き、いよいよ64歳以下の方へ接種が始まりますが、高齢者の予約開始の際の課題を踏まえ、一般向けの接種についてはどのように接種券を送付し、予約を受け付けることとするのか、お尋ねいたします。

○4番（川上陽平） 予約専用サイトからの予約を原則とするということですが、インターネットから予約できない方にはどのように対応するのか、お尋ねいたします。

○4番（川上陽平） 今回は64歳以下の方が対象とはいえ、やはりインターネットを使えない方も一定数おられると思います。

高齢者の方に対しては、先日まで公民館においてインターネット予約のサポートが行われていましたが、再度同様のサポートを実施するべきではないでしょうか、御所見をお伺いいたします。

○4番（川上陽平） いずれにしても、予約専用サイトまたはコールセンターで円滑な予約受付を行い、できるだけクリニックに負担をかけないような対応をお願いしたいと思います。

次に、基礎疾患を有する方への接種について確認いたします。

先ほど基礎疾患を有する方は、年齢にかかわらず、接種券が到着次第、予約可能とするとの答弁がありました。が、そもそも基礎疾患を有する方とはどのような方なのか、お尋ねいたします。

○4番（川上陽平） 行政としては誰が基礎疾患をお持ちなのか情報を持っていないと思いますが、基礎疾患を有する方をどのように把握するのか、お尋ねいたします。

○4番（川上陽平） では、現時点で何人の方が基礎疾患登録サイトに登録しているのか、お尋ねいたします。

○4番（川上陽平） 既に相当数の方が基礎疾患の登録をなされているようですが、基礎疾患をお持ちの方は、かかりつけのクリニックでの接種を希望されるケースが多いと思われます。

クリニックの協力なしには円滑な接種は進んでいかないと思いますが、一般の方も含めて、全ての対象者への接種はいつまでに終わる見込みなのか、お尋ねいたします。

○4番(川上陽平) スピーディーな接種を進めるに当たり、一方で、ワクチン接種に抵抗感を示す人が一部おられるとも聞いています。

このため、ワクチン接種の正確な情報や有効性を分かりやすく示すとともに、市全体の接種済みの件数など日々の進捗状況を可視化するなど、接種を迷っている方や積極的に打ちたいと思っていない方に対する啓発を行っていくことが必要だと考えますが、御所見をお伺いいたします。

○4番(川上陽平) 次に、高齢者施設を対象に行われている出張接種ですが、これから64歳以下の方への接種が始まる中、障がい者施設の入所者や在宅の要介護者などもワクチン接種のためにクリニックや集団接種会場に出向くことは難しいと思われるため、障がい者施設なども出張接種の対象にしてはどうかと考えますが、御所見をお伺いいたします。

○4番(川上陽平) 次に、接種を進める上で欠くことのできない医療従事者の確保についてです。

ワクチン接種会場については、福岡市ではマリンメッセでの時間延長に加え、新たにクルーズセンターに開設し、さらには各区での集団接種会場の開設を予定されていますが、打ち手である医療従事者の確保はできているのでしょうか、お尋ねいたします。

○4番(川上陽平) 24時間対応可能な接種会場の開設も予定されていますが、その概要をお尋ねいたします。

○4番(川上陽平) 国は職域接種について最短で6月21日から開始するとのことですが、職域接種とはどういったもので、福岡市においてはどの程度の企業等が実施の意向を示しているのか、お尋ねいたします。

○4番(川上陽平) 職域接種はワクチン接種を効率的に進める観点から有効な取組だと思います。福岡市には数多くの企業や大学が集積しており、職域接種の実施について前向きに考えている企業や大学も多いと聞いておりますので、これらのサポートをしっかりと行っていただくよう強く要望しておきます。

本市におきましては、市独自の優先接種の実施や24時間対応可能な接種会場の開設など、様々な工夫を凝らしながら市民の安全、安心を守るためのワクチン接種が進められております。また、これから水害等の災害リスクが高まる中、災害支援等に従事する職員や消防団、また、災害ボランティアの方への優先接種が始まるなど、我が会派の進言を踏まえた取組も着実に進められております。改めてコロナ収束の切り札はワクチン接種にほかならず、本市のこれらの取組は大変すばらしく、評価に値するものだと思います。

最後に、市民の皆様が安心してワクチン接種を受けられるよう、ワクチン接種事業に対する高島市長の決意をお伺いして、この質問を終わります。

○4番(川上陽平) 次に、福岡市民体育館跡地への福岡武道館の移転について質問をさせていただきます。

福岡市民体育館は市民体育の振興を図る施設として昭和47年に開館され、数多くのスポーツ大会が開催されるなど、多くの市民に利用されてきました。私にとりましても、幼い頃から剣道の試合で何度も利用してきた思い出深い施設であります。この福岡市民体育館については、平成30年12月に福岡市総合体育館がアイランドシティに整備されたことを受けて、今後の在り方についての検討が行われました。令和元年12月に、第1競技場棟については大会需要への対応として継続利用することが決まりました。また、第2競技場及び本館については、老朽化が進んでいることに加え、地区体育施設や民間施設などでの代替が可能であることから廃止するとの方針が示されました。これを受けて、令和3年3月31日付で第2競技場及び本館が廃止され、現在、第1競技場の改修工事や廃止した施設の解体工事に向けて手続が進められております。

そこです、継続利用が決まった第1競技場の改修工事について概要をお尋ねいたします。

○4番(川上陽平) 第1競技場については、市民にとってより利便性の高い施設となるよう期待しております。次に、廃止することとなった第2競技場棟及び本館棟の解体工事について今後のスケジュールをお尋ねいたします。

○4番(川上陽平) 令和4年の8月には建物の解体が終わるとのことですが、建物解体後の跡地利用についてどのように考えているのか、お尋ねいたします。

○4番(川上陽平) 福岡市民体育館の敷地は国からの借地であるため、施設の廃止後については国へ用地を返還しなければならないということです。

では、国へ返還予定の用地について、返還する面積と時期についてお尋ねいたします。

○4番(川上陽平) 約6,420平米の用地を令和4年度の秋に国へ返還予定であるとのことですが、この用地については、先月開催された国の国有財産九州地方審議会において留保財産に選定されたと伺っております。

そこです、留保財産とはどのようなものなのか、お尋ねいたします。

○4番(川上陽平) それでは、留保財産と位置づけられた福岡市民体育館用地は、国において今後どのような検討が行われていくのか、その流れを教えてください。

○4番(川上陽平) 国がこの留保財産の利用方針を決定するに当たっては、県や市の意見、それから、地域のニーズも踏まえられるとのことであり、今後、本市においても様々な検討がなされることと思いますが、この件につきまして本質問の趣旨である私の意見を述べさせていただきます。

現在、大濠公園と隣接した場所に福岡県警察が管理しております福岡武道館があります。福岡県において、昨年1月に新福岡県立美術館の建設地が大濠公園南側にある福岡武道館及び日本庭園の一部を再整備した用地と決定されました。これを受けて、福岡武道館の移転先の検討が進められ、今月の10日には福岡県の服部知事が県議会において、福岡武道館の移転先は福岡市民体育館の跡地が最適であると判断したと答弁されました。交通利便性や大会利用を踏まえ、私も留保財産と位置づけされた市民体育館の跡地こそが福岡武道館の移転先として最適であると考えております。

そこです、福岡武道館とはどのような施設なのか、お尋ねいたします。

○4番(川上陽平) 次に、どのぐらいの県民、市民に利用されているのか、お尋ねいたします。

○4番(川上陽平) ただいまの答弁からも分かる通り、福岡武道館は現在も広く県民、市民に利用されている施設であります。特に武道関係者にとっては、講習会や研修を通して交流を深めながら、指導者同士の技量を高め、後進の指導育成を行い、青少年の健全育成の一役を担ってきました。これは本市教育委員会が力を入れている武道教育等にもつながるものであります。

また、福岡は武道大国と言われています。剣道を一例に挙げますと、昨年はコロナで残念ながら全国大会等は開催できませんでしたが、一昨年の大会では小学生の全国大会で優勝したのは福岡市内の道場であり、また、全国中体連の女子個人で優勝したのも福岡市内の中学生です。インターハイでは個人優勝した男女ともに福岡市の出身者であります。福岡市で毎年行われている高校玉竜旗大会では、男子が福岡第一高校、女子は中村学園が優勝、ともに市内の高校であります。そして、剣道の最高峰である全日本選手権大会では男女ともに福岡市出身

の選手が日本一に輝いています。このことは、福岡市剣道連盟を中心とした先生方の熱心な指導や日頃からの御尽力、御努力のたまものだと思います。それに加え、福岡市内には福岡市民体育館や福岡武道館等の充実した環境があることも大きな要因だと考えております。このすばらしい環境は、福岡の武道の発展に大きく寄与してまいりました。

ところが、昨年1月に福岡武道館の移転が決まったことから、多くの武道関係者から不安や心配の声が多く寄せられています。私は福岡市におけるこれまでの教育環境を今後も維持し、すばらしい実績を引き継いでいくためにも、新しい武道館は市民体育館の跡地に誘致すべきだと考えます。我が会派においても、福岡武道館を福岡市内へ整備、誘致するよう要望してきました。また、今年3日には福岡市剣道連盟とともに市長に対して、市民体育館跡地への誘致に取り組んでいただくよう要望書を提出したところです。福岡市民体育館と福岡武道館は、これまでそれぞれの役割の中で多くの人々に利用されてきました。その両施設が今後隣接し、連携することができれば、これまで以上に市民スポーツや武道の振興につながり、ひいてはより魅力ある福岡市の発展にも寄与するものだと確信いたしております。

先日の県議会で服部知事は県と福岡市の連携、協力の一つの成果となるよう、高島市長と連携して武道館の移転に向けて取り組んでいくと答弁をされておりました。このことから、ぜひ福岡県と連携の上、市民体育館跡地への福岡武道館の移転実現に向けて、国に対してしっかりと働きかけていただくようお願いいたします。

最後に、福岡武道館の移転に関する高島市長の御所見をお伺いし、私の質問を終わります。